

東京 IPO 特別コラム

2020年10月20日 Vol.167

高値を更新したマザーズ指数

日経平均や TOPIX といった日本株を代表する指数がなかなか高値を更新できずに推移する中で、マザーズ指数が10月14日に1368.19の高値をつけ、とうとう2018年1月の高値を更新してきた。マザーズ指数はコロナショックが起きる中、本年3月に安値527.30をつけ、2013年の安値水準まで売られたが、この安値をボトムに7か月間で約2.6倍となった。つまり2年2か月間の調整を7か月間で取り戻した計算だ。問題はこの後の展開だが、既に先駆した創薬ベンチャーなどを中心に利益確定売りに押される展開が見られ指数自体にもやや高値警戒感が始まっているとの印象があり、テクニカル上も長期移動平均線からの乖離率が拡大しており、警戒感が出やすい株価の位置に入ってきた。このため利益確定売りも出やすい。マザーズ指数が今週始めに1300ポイント割れを演じたのもそうした視点を踏まえてのものと推察される。それでもマザーズ指数はまだ高値更新を果たしたばかりであり、多少の指数の調整や人気銘柄の変化はあるとしても、米NASDAQ指数と同様に好需給を背景に現在の指数のトレンドに大きな変化は当面は起きないという強気の見方を堅持したいが、それは米国の株式相場に連動しやすいと見ておく必要がある。

こうしたマザーズ銘柄が人気化する中で10月後半のIPOもユニークなマザーズ銘柄が相次いで登場。10月27日の妊娠育児ママ層向けアプリ提供サービスのカラダノート(4014・公開価格450円)、28日の基礎化粧品製造販売のプレミアムアンチエイジング(4934・同4140円)、認可保育所を展開する、さくらさくプラス(7097)、30日のグルメプラットフォームを展開するRetty(7356)といずれも人気化期待のマザーズ銘柄だ。

これらに先立って9月後半にIPOに至ったマザーズ銘柄では①トヨクモ(4058・24日・公開価格2000円⇒初値9020円(4.5倍)⇒高値11190円(初値比+24.1%)⇒時価7000円)、②I-ne(4933・25日・公開価格2890円⇒初値3250円(+12.5%)⇒高値4730円(+45.5%)⇒時価3610円)、③rakumo(4060・28日・公開価格1250円⇒初値3800円(3.0倍)⇒高値4175円(+9.9%)⇒時価3145円)、④ヘッドウォータース(4011・29日・公開価格2400円⇒初値28560円(11.9倍)⇒高値36250円(+26.9%)⇒時価22740円)、⑤アクシス(4012・30日・公開価格1070円⇒初値5700円(5.3倍)⇒高値9350円(+64%)⇒時価5860円)と登場。押し並べて人気化し初値が公開価格に対して大きく上回るケースが見られたが、短期的な人気化はあってもその後は高値形成後に反落し初値を下回るIPO銘柄独特のケースが見られるため、9月に比べると10月後半のIPOはやや初値形成はやや穏健になるものと想定したいが、マザーズ銘柄への人気継続傾向を受けて引き続き各銘柄ともかなりの人気化が想定される。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)